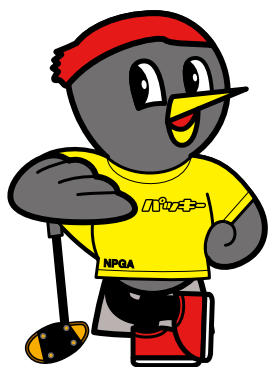


LET'S ENJOY PARK GOLF



パークゴルフ応援キャラクター
“パッキー”

パークゴルフ

ひとを元気に、まちを元気に
笑顔ひろがる
コミュニティスポーツ

人にやさしく、自然に優しく、誰もが楽しめる。 “遊び”を原点とした3世代スポーツ、 それがパークゴルフです。

世代を問わずみんなが楽しめる。

自然と笑顔がこぼれるから、人に元気が、まちに活気があふれてくる。

パークゴルフ発祥の地北海道幕別町をはじめとして

今、様々な地域でパークゴルフのもたらす相乗効果が現われています。



パークゴルフとは

パークゴルフとは、スタート地点（ティーグラウンド）から各人がクラブで自分のボールを打ち、いかに少ない打数で直径約20cmのカップに入れるかを競うスポーツです。4人以内で回り（1人でもかまいません）、コースはハーフ9ホール（パー 33）を原則として、1ラウンド18ホール（パー 66）でプレーします。コースによっては27ホール、36ホールとあり、地形を利用したコースレイアウトなどその土地ならではの特色を活かせるのも大きな魅力です。また、ハンディキャップを最小限にとどめるため、1ホールの距離を100m以内と定められています。



地域の活性化や医療福祉分野への貢献など、
パークゴルフの多様な可能性が、
今注目を集めています。

高齢者同士はもちろん3世代が
和気あいあいとプレーを楽し
め、新しいコミュニティ形成の
社会効果を生み出します。



「よく眠れる」「食事が楽
しくなった」「足腰が丈夫
になった」など健康増進
効果があり、医療費削減
にも貢献します。



コミュニティスポーツとして、小
中学生をはじめ大学でも、授業ま
たはクラブ活動として広く採用さ
れています。

地域交流
3世代交流
国際交流

教育効果

健康促進

パークゴルフ
による効果

土地の
有効利用

経済効果

環境保全

雑草が生い茂ってい
るだけの広い土地が、
笑顔あふれる集いの
場になるとしたら。
パークゴルフは土地
の有効利用という面
からも注目されてい
ます。

あるがままの自然環境を
有効利用することで、環
境保全にも効果的。
企業（工場など）の緑化
政策にも最適です。

特産品の売上増など観
光消費額の増加が期待
され、地域の経済活性
化に大きな貢献を果た
します。



パークゴルフ導入にあたっての 要 点

◆標準的なコース



コースの造成については地形（自然）を利用することをふまえた十分な配慮が必要です。どんな土地がコースとして適当かを把握し、地形、その他を十分に活かすための現状分析を行います。また、パークゴルフはゴルフとは似て非なるもの。多世代、近隣市町村からの来訪など幅広い層の人々がプレーを楽しめることを目的としたスポーツであることを忘れてはなりません。

1

コースとして適当な場所

- ① 既存の公園を利用する。
- ② 河川敷を造成する。
- ③ 林地・畑・原野などを造成する。
- ④ スキー場・ゴルフ場の遊休地を活用する。
- ⑤ その他の遊休地を造成する。

2

必要な面積等

- ① 18ホールとして、およそ12,000㎡以上の面積が必要です。
- ② 地理的条件にもよりますが、大会等を考慮し隣接して将来18ホールを追加できるようにであればなお望ましいです。
- ③ コースは公認になるコースづくりを。
- ④ 自然を大切に、農薬は絶対禁止。

3

コースレイアウトと造成

- ① コースは9ホールを単位としてレイアウトする。
- ② 標準打数（パー）は18ホールで66とする。
- ③ 1ホールの距離は、最長100m以内とする。
- ④ 1コース（18ホール）の距離は、700m以上から1000m以内までとする。

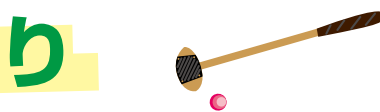
4

コース全体のイメージ

- ① パークゴルフのコースは、既存の公園の場合ではその美しさを損なわないコース造りを心掛ける。
- ② 河川敷などに造る場合は、ゴルフ場の美しさをイメージしながら、パークゴルフに相応しいものを造る。使用用具の制約があるため、池越え谷越えのコースは出来ません。

パークゴルフによる 街づくり

家族や友達、また会社やサークルの仲間と一緒に気軽に楽しめるパークゴルフは、特別な宣伝をした訳でもなく、発祥地・北海道幕別町から他の市町村へと瞬く間に広がりました。そこには、多くの人々がこのような自然の中での爽快感、人とのふれあいが楽しめるスポーツを望んでいたこと、そしてパークゴルフには遊びを超越したプラスアルファの魅力があったからに違いありません。「公園に親しむ人が増えた」「パークゴルフが縁で友達の輪が広がった」「無理せず楽しめてストレス解消にぴったり」などのメリットが注目され、やがて普及と同時に各地で「交流」を求める活動へと進展。公園の有効利用から始まったパークゴルフは住民レベルの自主的交流から人の移動による消費促進の経済効果、適度な運動による健康増進や老人医療費の抑制、生涯学習等への教育効果など、数えきれないほどの相乗効果を発揮し、あらゆる地域、様々なシーンで取り入れられています。



はらっぱ36 上空からの撮影

「楽しさの共有」をキーワードに、
パークゴルフを通して
コミュニケーションの輪が広がっています。



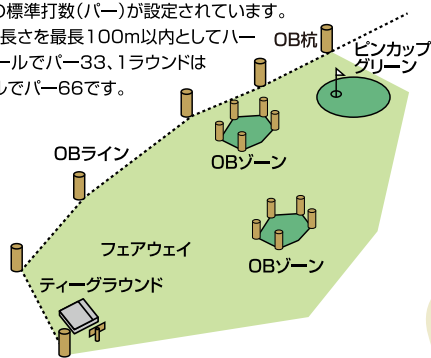
パークゴルフ の 遊び方

How to play PARKGOLF

数本のクラブを使う本格的なゴルフと違って、1本のクラブと1個のボール、それにボールを置くティーがあれば誰でもプレーができます。プレーの方法は、1個のボールをティーグラウンドから放ち、1ストローク以上のストロークを積み重ねてカップに入れます。ボールをカップインするまでの打数を競い合いながら楽しく遊ぶスポーツです。

コース

スタート位置にティーグラウンドがあり、1ホールに3から5の標準打数(パー)が設定されています。ホールの長さを最長100m以内としてパーは9ホールでパー33、1ラウンドは18ホールでパー66です。



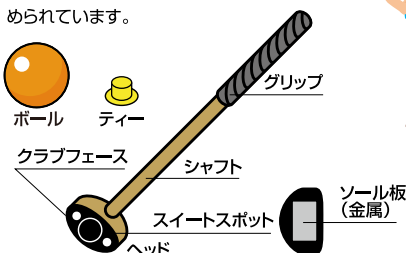
初心者にやさしい

パークゴルフでは空振りも打数に数えられません。気を楽に、ボールを見つめて打ち下ろせば、ほら、見事スイートスポットから快音が発します。



パークゴルフ用具の基準

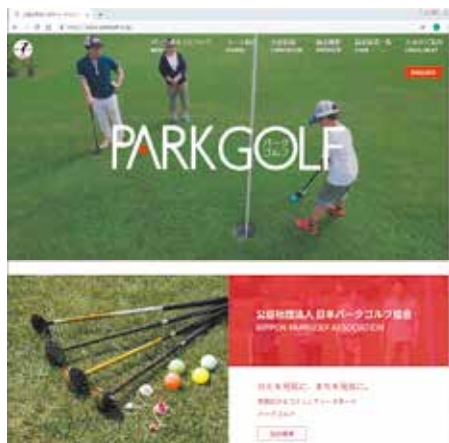
クラブの重量は600g以下、長さは860mm以下です。また、ヘッドの木部の体積割合は82%以上と決められ、打球面とソール面(クラブヘッドの底面)の角度は90度以上。ボールは直径が6cm、重量は80以上95g以下と決められています。



安全第一に楽しく遊ぶ

1人でも何人でもプレーは楽しめますが、グループの場合は、3~4人で1組としてください。ティーショット時の同伴者はティーグラウンドの外で静かに待ち、近寄ったり打者の前には絶対に出ないようにしましょう。とても危険なので全員が打ち終わってからフェアウェイに出ることが原則です。

私たちは、世代や地域を越えより多くの人々に愛される
パークゴルフの普及と発展に努めています。



公式ホームページをご覧ください。



<https://www.parkgolf.or.jp/>

日本パークゴルフ協会

検索

日本パークゴルフ協会設立主旨

本協会は、国内におけるパークゴルフを代表する団体として、パークゴルフの普及振興を内外において図ることを主導し、もって人々の心身の健全な発達と生涯スポーツの振興に寄与することを目的として活動しています。

概要

- 法人名／公益社団法人 日本パークゴルフ協会
- 所在地／〒089-0616 北海道中川郡幕別町宝町 53-1
- 沿革／1983年 パークゴルフの原型が北海道幕別町で誕生
1987年 パークゴルフの統括組織として国際パークゴルフ協会が設立
(2001 特定非営利活動法人(NPO) 法人資格取得)
2011年 公益社団法人日本パークゴルフ協会が前身(NPO) 国際パークゴルフ協会の財産・権利をすべて帰属し、全事業を継承してスタート

事業内容

1. パークゴルフの普及・指導に関する事業
2. 加盟団体の指導・育成に関する事業
3. 指導者の養成・研修に関する事業
4. 指導員、アドバイザーの認定に関する事業
5. パークゴルフコースの造成指導に関する事業
6. 公認コースの認定に関する事業
7. パークゴルフに関する情報収集、提供(機関紙の発行)に関する事業
8. 各種主催・共催又は後援事業の運営・指導に関する事業
9. その他本協会の目的を達成するために必要な事業

お問い合わせ



NIPPON PARKGOLF ASSOCIATION

公益社団法人日本パークゴルフ協会

〒089-0616 北海道中川郡幕別町宝町 53-1

TEL:0155-54-2260 FAX:0155-54-2204

E-mail: parkgolf@ipga.jp URL <https://www.parkgolf.or.jp/>

Address: Makubetsu-Town Takaramachi 53-1 Hokkaido JAPAN